

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	佐藤（船木）聡美 【人間発達科学専攻 平成17年度生】	要 旨
論文題目	小児がんの子どもをもつ母親の心理的問題 —メディカル・トラウマと子育て不安の関係—	<p>子どもの死亡原因のトップを占める悪性新生物（がん）は毎年2000人～2500人の子どもが罹患するが、がんは死亡率が高いだけでなく、苦痛を伴う長期間の治療が必要な疾患である。佐藤聡美氏は小児がんの全国の拠点医療機関の臨床心理士であり、がんの子どもを支援するための方策を探ることを目的として本研究を行った。子どもが重篤な疾患に罹患した時に、母親は「再体験」「回避」「覚醒亢進」などの臨床的症状を示すメディカルトラウマという状態に陥ることはよく知られている。佐藤氏は、小児がんの母親は、このメディカルトラウマに加えて、子育て中のすべての母親に共通する子育て不安を有するという特性に着目し、小児がんの</p>
審査委員	(主査) 教授 榊原 洋一	子どもの支援には、子育て不安への対応も考慮した方策が必要であるという視点で以下の4つのリサーチクエスチョンを抽出した。
	教授 菅原 ますみ	1. 日本の小児がんの子どもを母親のメディカルトラウマの程度はどのくらいか。
	准教授 上原 泉	2. メディカルトラウマと子育て不安はどのように関連するのか。
	教授 沼部 博直	3. 対応方策やソーシャルサポートはメディカルトラウマと子育て不安を軽減するか。
	教授 沼部 博直	4. メディカルトラウマと子育て不安に影響を及ぼしている他の変数はなにか。
	横浜国立大学准教授 泉 真由子	<p>佐藤氏は上記のリサーチクエスチョンに答えるために、全国の8つの基幹医療施設で治療を受けた104人の母子に対して質問紙法によってメディカルトラウマの程度、子育て不安（及び肯定感）とメディカルトラウマの関連を調査した。その結果メディカルトラウマと子育て不安は中程度の有意な相関を持つが、子育て肯定感とメディカルトラウマと有意の負の相関を持つことを見出した。ついで同対象の自由記述をKJ法によって分析し、小児がんの子どもを母親に見られる心理的問題が4つのカテゴリーに分類されることを見出した。</p> <p>これらの調査結果をもとに、実際にがんの子どもをもつ母親2人にKazakの提案したメディカルトラウマへの心理面接の指針に沿ったエビデンス実践を行った。その結果「がんの子どもでも成長してゆくことに母親の目を向ける」「苦痛の反復（＝再発）を想定した環境調整」などの新たな視点を見出すことができた。</p> <p>本研究論文は、がんの子どもを母親に対する心理的支援方法に有用な情報を提供しており、臨床的に有用であると考えられる</p>

